

**「国土交通行政インターネットモニター」アンケート調査（平成21年7月実施）  
「国内における水危機に関する意識調査」の結果について**

<はじめに>

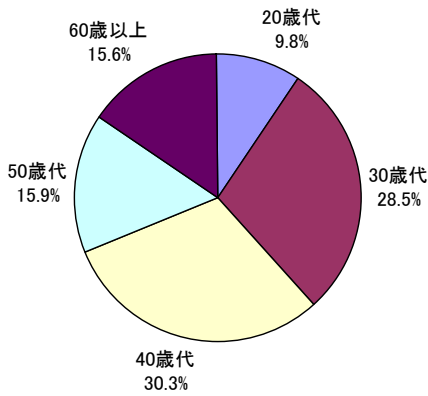
水危機とは、渇水や塩水障害、水道に関連する施設（水路、浄水場、取水施設、ダムなど）の老朽化・地震等による損壊、水質事故などの要因（参考資料を参照）により、水を容易に入手できなくなること示します。施設の老朽化や気候変動等の影響により、今後、水危機のリスクが増大していくことが予想されます。

そこで今回、水危機に関する認識や体験、今後の発生可能性について、広く全国の皆様の意識を探り、今後の施策に反映するため、「国内における水危機に関する意識調査」を実施しました。その結果は、以下のとおりです。

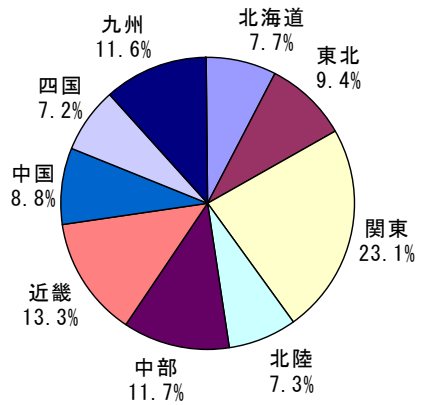
<モニター回答者の属性>

モニター数 1,199 人  
 回答者数 1,054 人  
 回答率 87.9%

年代別



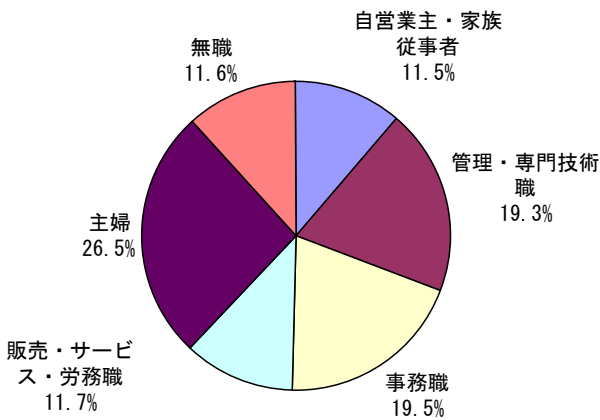
ブロック別



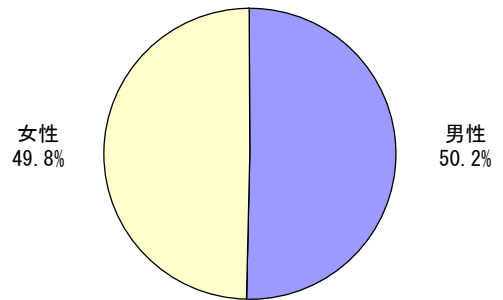
20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	計
103	300	319	168	164	1,054

北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	計
81	99	243	77	123	140	93	76	122	1,054

職種別



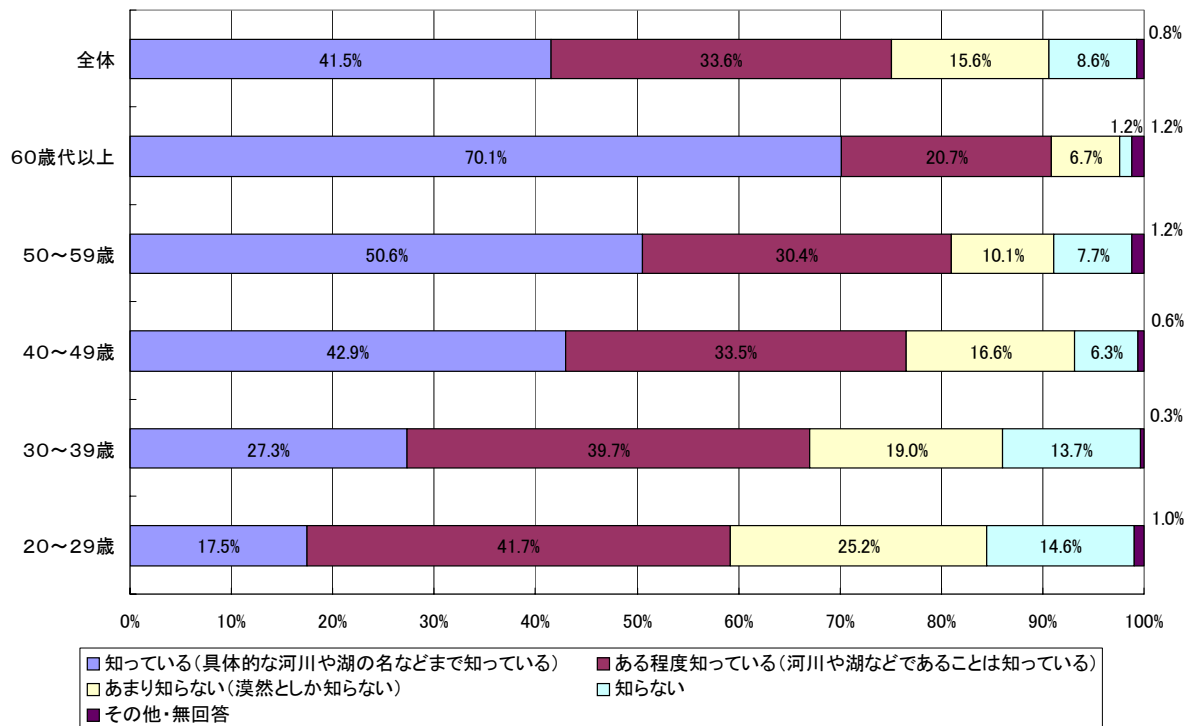
男女別



自営業主・家族従事者	管理・専門技術職	事務職	販売・サービス・労務職	主婦	無職	計
121	203	206	123	279	122	1,054

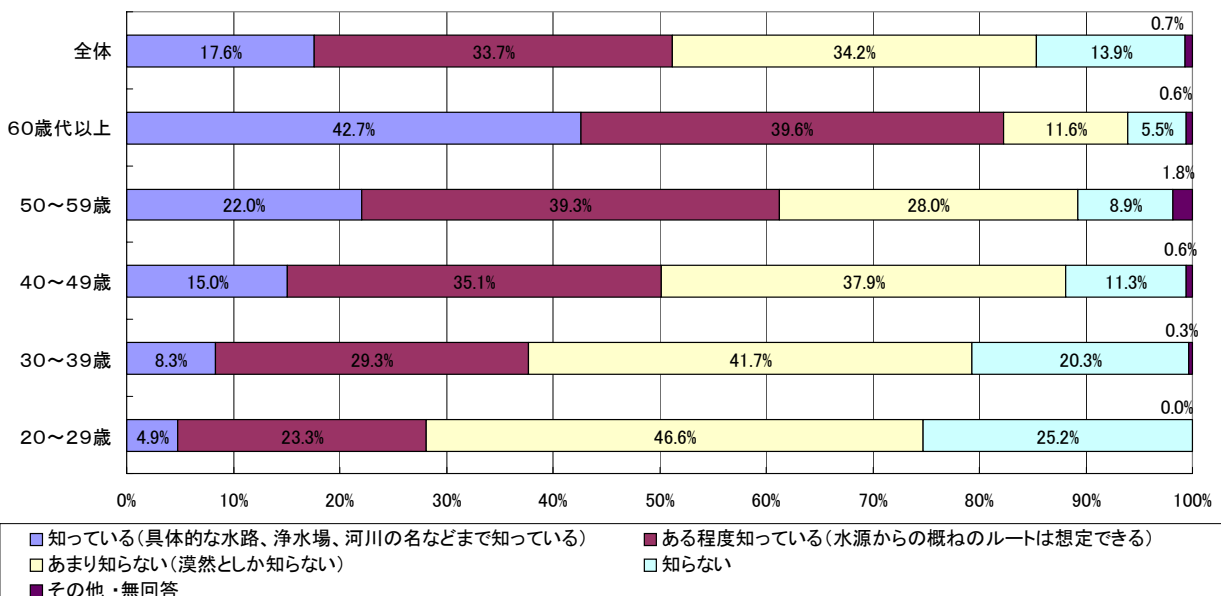
男性	女性	計
529	525	1,054

問1 あなたの使っている水道の水の水源は何かご存知ですか。



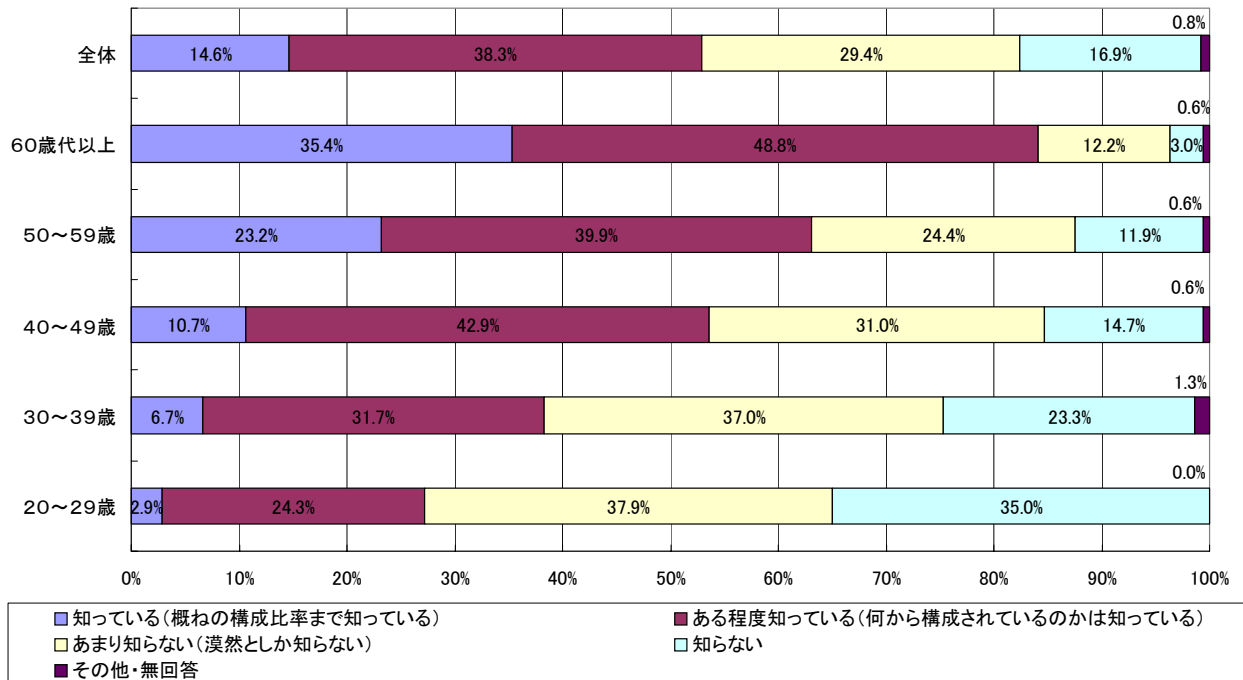
- 水道の水源について、7割以上が認知している
- 年齢層が低くなるに従い、認知度は低下する傾向がある

問2 あなたの使っている水道は、どのようなルート（水路、浄水場、河川など）を通して給水されているかご存知ですか。



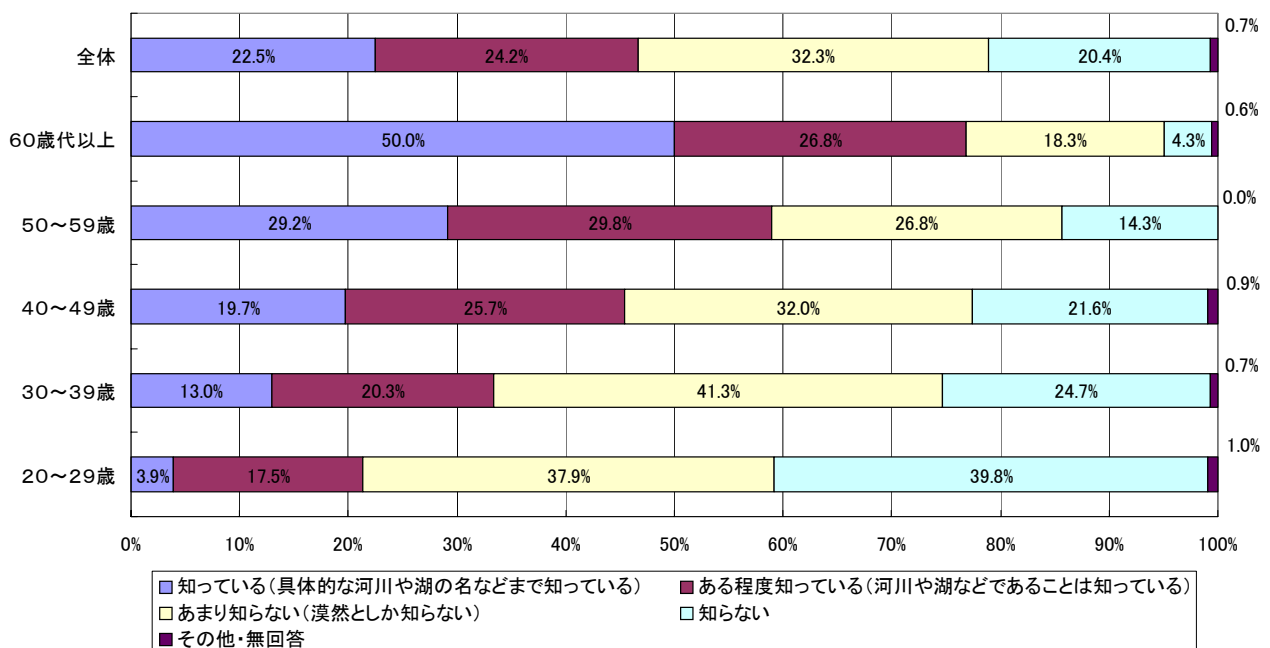
- 水道の給水ルートについて、約5割が認知している
- 年齢層が低くなるに従い、認知度は低下する傾向がある

問3 あなたの使っている水道水は、どのような水（河川、湖沼、地下水、海水を淡水化した水など）から構成されているかご存知ですか。



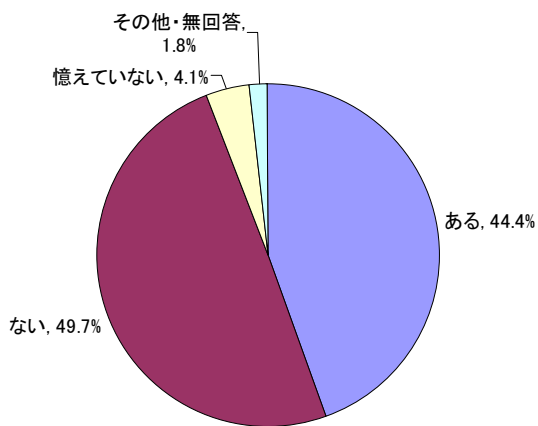
- 水道水の水源構成について、約5割が認知している
- 年齢層が低くなるに従い、認知度は低下する傾向がある

問4 あなたが使った水は、下水道や浄化槽を通じて、どこに排水しているかご存知ですか。



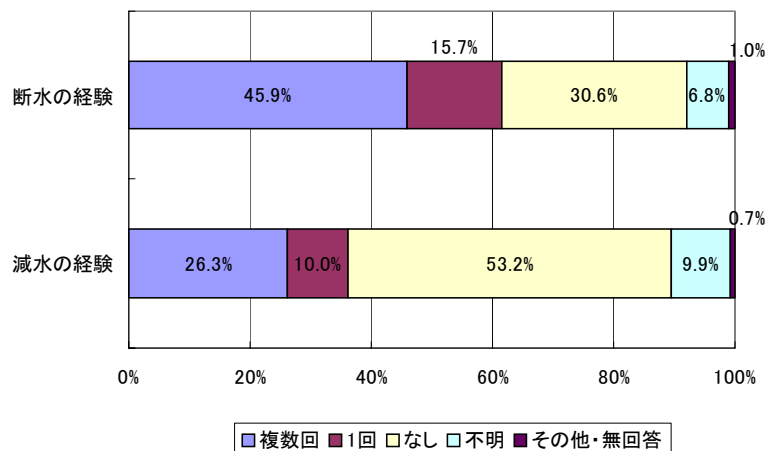
- 排水先の認知度は5割未満と、水源に比べ低い
- 年齢層が低くなるに従い、認知度は低下する傾向がある

問5 あなたの使っている水道に関連する施設（水路、浄水場、取水施設、ダムなど）を実際に見学したことがありますか。



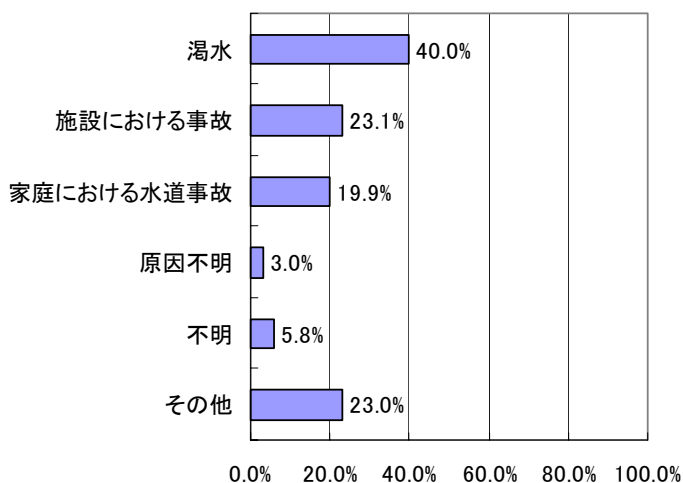
- 水道に関連する施設の見学については、経験がない方がほぼ半数を占めている
- 水道のルートや水源構成などの水の由来を知るためにも、水道に関連する施設を見学し、認識することが重要である

問6, 7 あなたは水道の断水又は断水以外の水道の水がでにくくなった（以下「減水」という）経験をしたことがありますか。



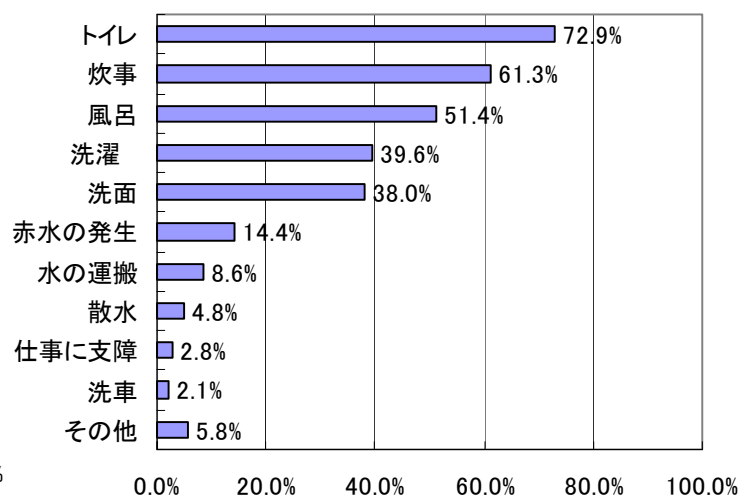
- 約6割が断水を経験している
- 図には示されていないが、全体の7割にあたる745人が断水又は減水を経験している

問8 断水又は減水の原因は何ですか。（経験者N=745に質問、複数回答可）



- 断水又は減水の原因は、渇水、施設における事故、家庭における事故の順

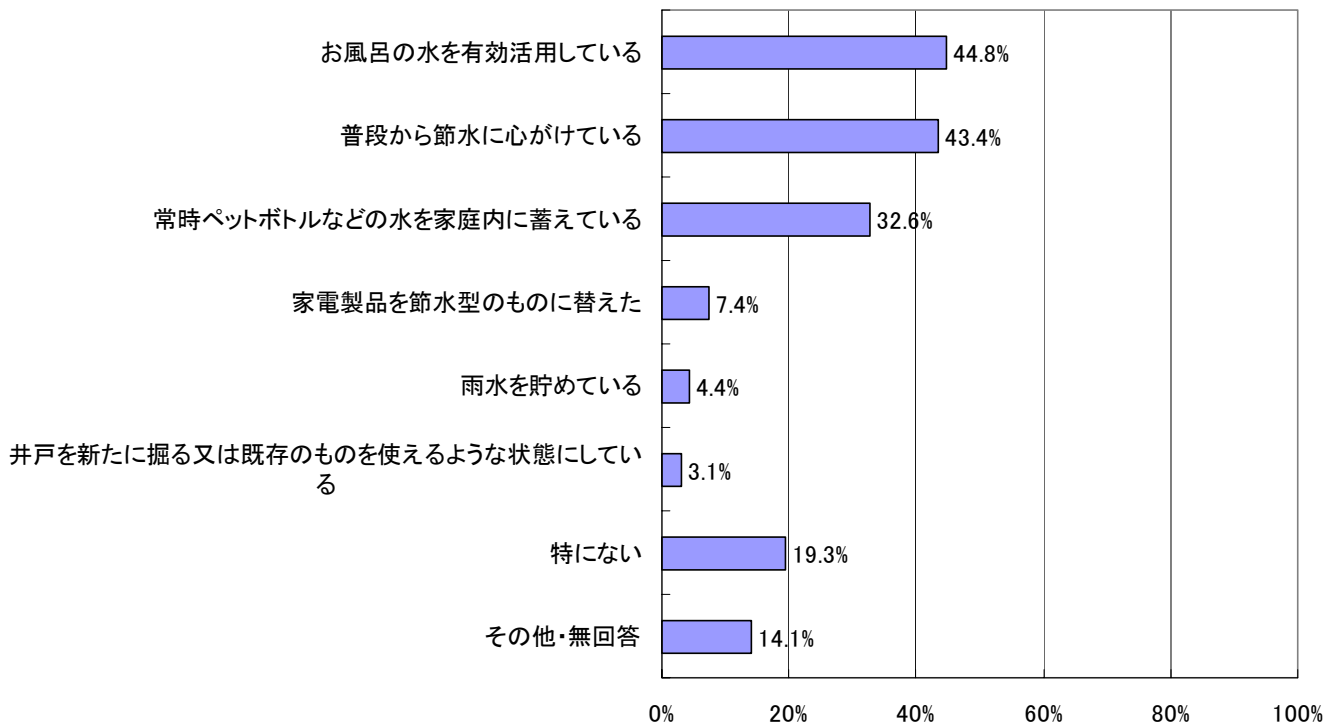
問9 断水又は減水で苦労されたことは何ですか。（経験者N=745に質問、複数回答可）



- トイレ、炊事、風呂、洗濯、洗面の順に苦労したと回答した割合が高い
- トイレ、炊事、風呂については、5割以上が苦労したと回答している

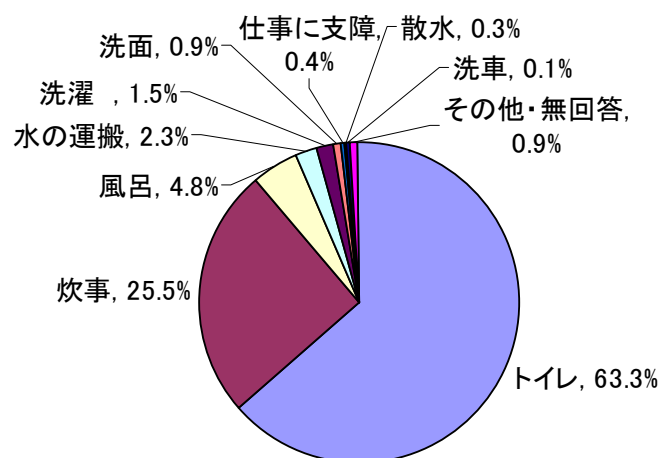
問10 断水又は減水を経験した後、ご家庭で心がけるようになったことはありますか。

(経験者N=745に質問、複数回答可)



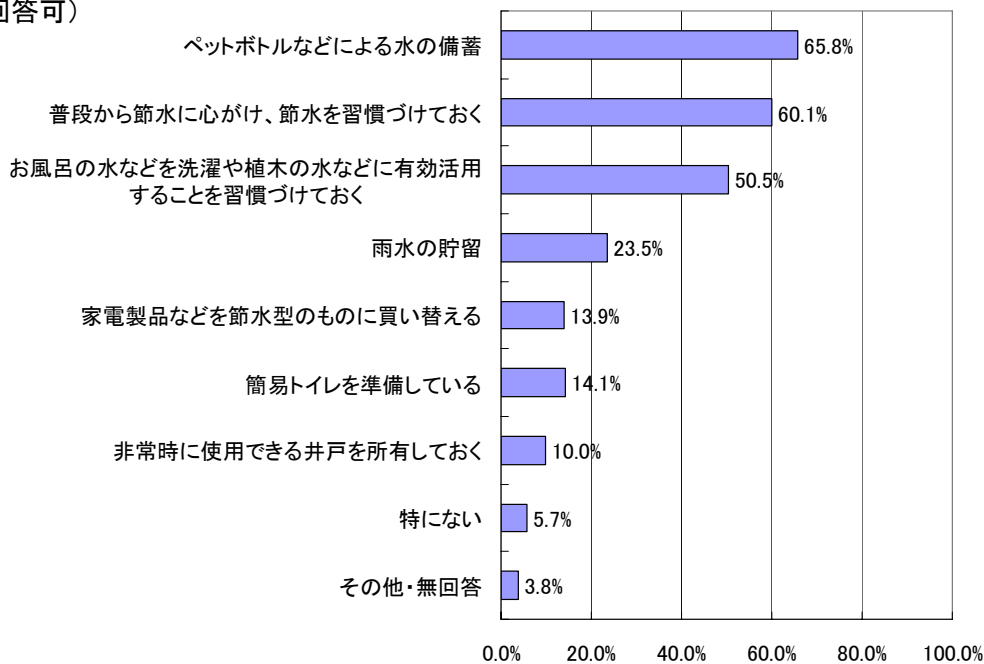
- お風呂の水の有効利用や節水といった、断水又は減水時の行動が継続する傾向が伺える
- 家庭内における水備蓄も3割以上が実施している

問11 断水になって一番困ることは何ですか。



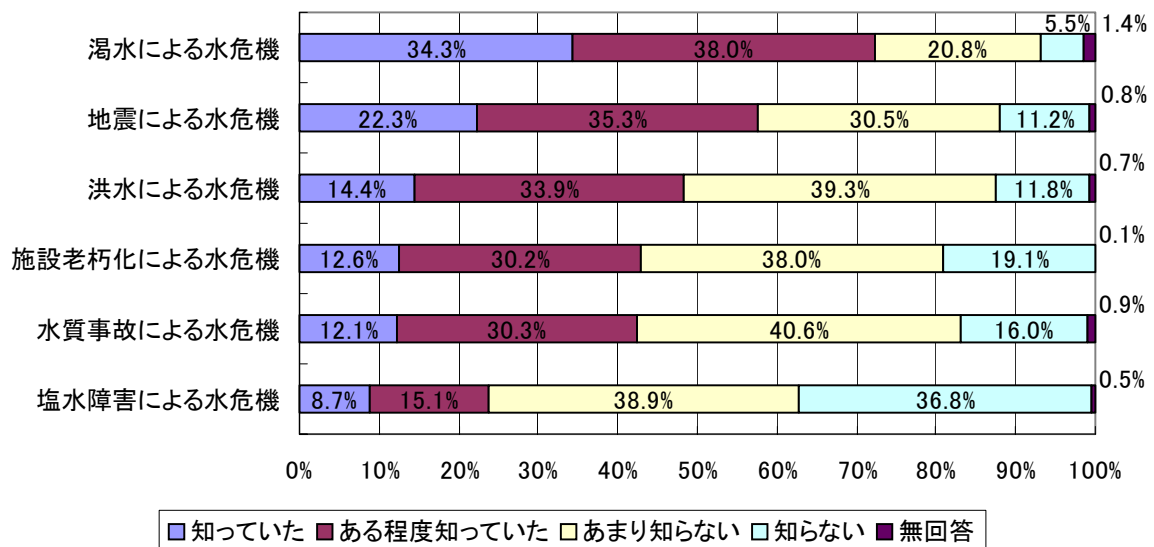
- トイレ又は炊事と回答した割合が全体の約9割を占める

問 1 2 断水等に備え、ご家庭で普段から準備しておいた方がよいと思われることはありますか。  
(複数回答可)



○ 家庭内における水備蓄や、節水及びお風呂の水の有効利用の習慣化について、5割以上が準備しておいた方がよいとしている

問 1 3, 1 5, 1 7, 1 9, 2 1, 2 3  
各種水危機の認知について



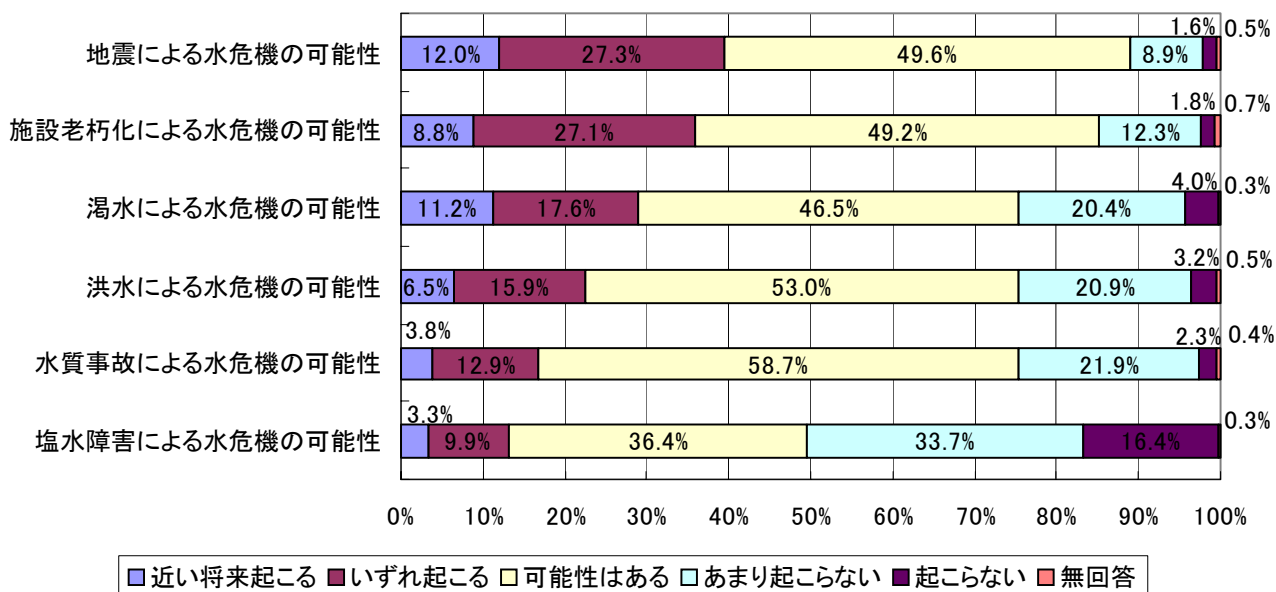
○ 渇水や地震による水危機については、5割以上がある程度認知していると回答している

○ 施設の老朽化及び水質事故、塩水障害による水危機についての認知度は相対的に低い

※ ここでいう施設とは、水路、浄水場、取水施設、ダムなどの水道に関連する施設のこととしています。また、水道についても、人々や企業などに水を供給するためのインフラの総称としています。具体的に水道には、上水、工業用水、農業用水、雑用水などが含まれます。以下同じ定義で使用します。

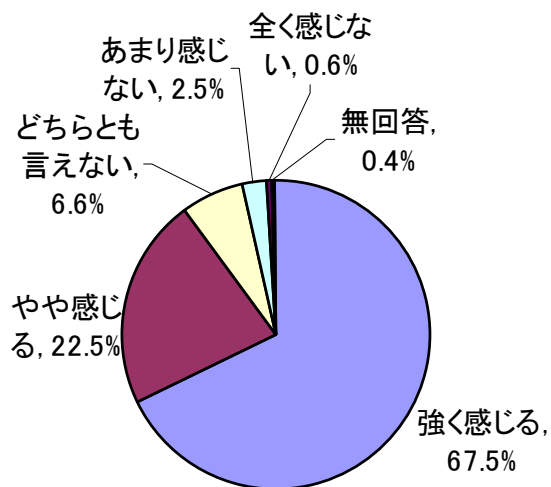
問14, 16, 18, 20, 22, 24

回答者居住地域における各種水危機の発生の可能性について



- 地震及び施設老朽化による水危機について、8割以上が発生の可能性ありと回答している
- 水質事故、洪水、渇水による水危機について、7割以上が発生の可能性ありと回答している
- 塩水障害による水危機について、発生の可能性ありとの回答は5割にとどまった
- 各種水危機について、多くの人がその発生の可能性を否定していないことがわかる

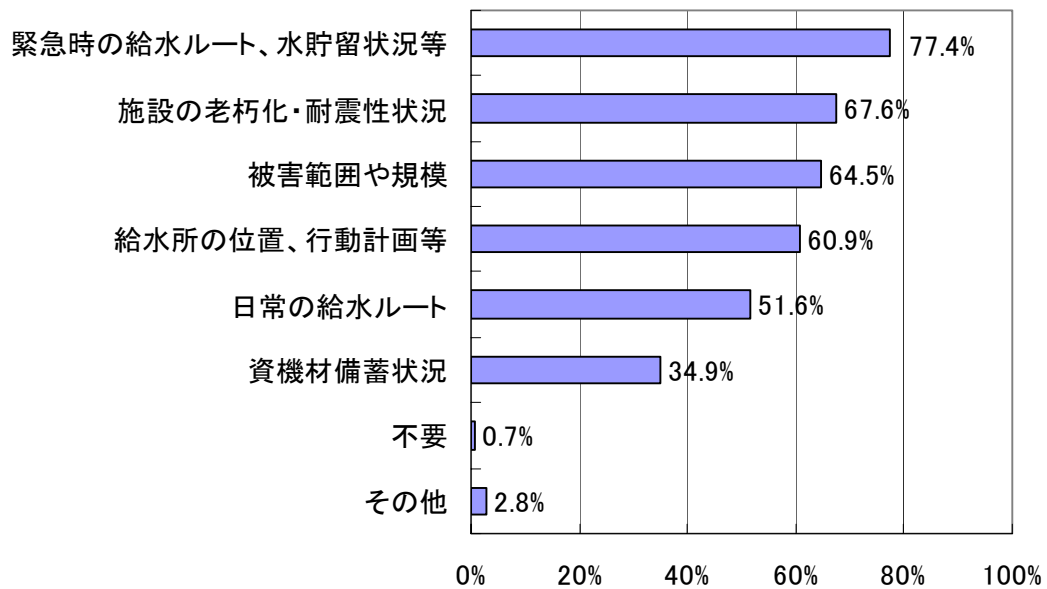
問25 施設が老朽化や地震等で損壊することなく、持続的に機能し続けることに、どの程度の必要性を感じていますか



- 施設機能の持続の必要性を認識している割合は約9割となっている

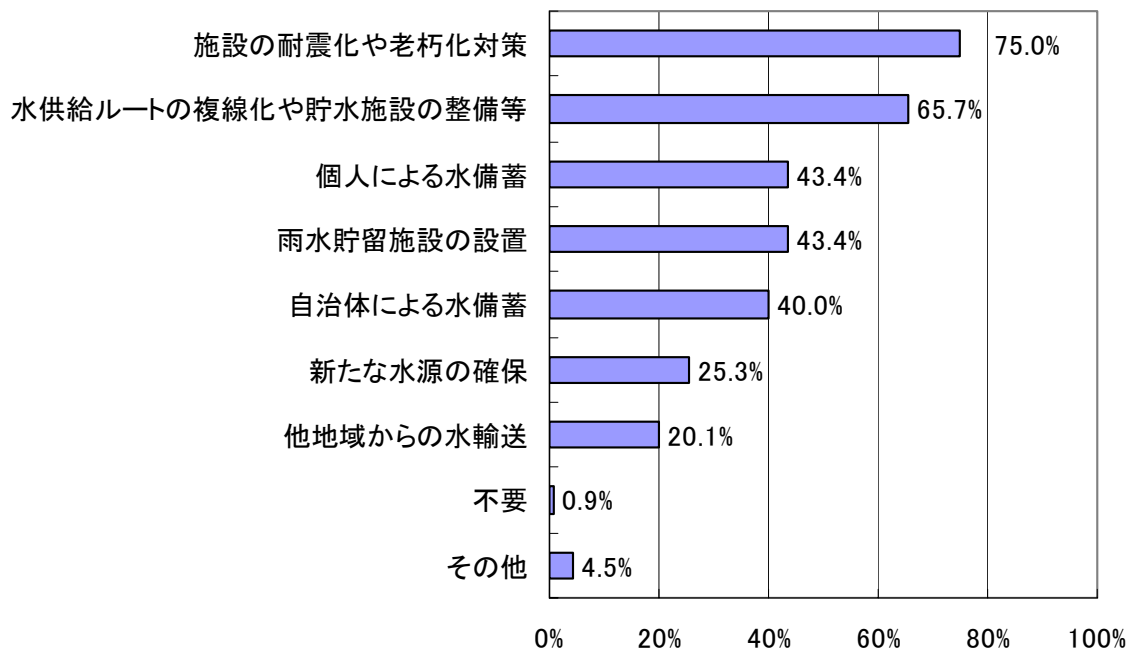


問26 水危機に備え、どのような情報を必要としますか。(複数回答可)



- 緊急時の給水ルート、水貯留状況、行動計画などの緊急時の対処計画や、施設の現状及びリスクに関する情報が必要とされている

問27 水危機に必要な対策について(複数回答可)



- 施設の耐震化や老朽化対策、水供給ルートの複線化や貯水施設の整備等といったハード対策を必要とする割合が6割以上となっている
- 雨水貯留や、自治体及び個人レベルによる水備蓄も約4割が必要な対策としている